

【学校教育目標】

進んで学習しよう
自他を大切にしよう
責任を果たそう



西中だより

令和8年1月16日発行

青梅市立西中学校

学校だより第9号

校長 田中 暁

最後の3ヶ月

校長 田中 暁

新年明けましておめでとうございます。保護者の皆様・地域の皆様におかれましては、明るく希望にあふれた新年をお迎えのことと存じます。旧年中は本校の教育活動に、温かいご支援とご協力を賜り、誠に有り難うございました。本年が、子供たち、そして皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、昨年12月に職員の校内研修会を実施しました。今回は、ペップトーク（PEPTALK）と呼ばれる励ましの言葉を身に付ける内容でした。このペップトークは、アメリカ発祥のスポーツの世界で指導者が行う言葉かけです。いかに受け手側の意識を高め、前向きに取り組ませるのか、教師にとっても、大変有意義な研修となりました。例えば、「部屋をちらかさない」よりも「整理整頓しよう」と伝えることで子供は反抗することなく前向きに考えることができます。また、指導者側の捉え方を広げることも大切であり、「落ち着きがない」ではなく「活動的である」と捉えると生徒の長所を見付けることができるということを学びました。本研修を通して、改めて私たち大人自身が前向きに良好な人間関係を構築し、互いのよさを認め合う言葉かけの基、子供たちを育成していくことの重要性を感じました。

今年度も残り3ヶ月、学校では4月からの教育活動を振り返り、新年度に向けての計画を立てる時期となりました。学校運営協議会委員の皆様、保護者・地域の皆様から寄せていただきましたご意見等も踏まえ、来年度もより充実した教育活動が実施できますよう、努力していきたいと考えています。

あと約50日の登校で子供たちは新しい学年になります。「まだ50日もあるのだから、今までできなかったことにもう一度挑戦してみよう。」「もう50日しかないのだから、1日も無駄にせず今まで積み重ねてきたことを最後まで続けていこう。」この「まだ」と「もう」の二つの考え方をもち、3月末までを過ごしてほしいと思っています。そして誰もが胸をはって、新年度を歩み始めてほしいと願っています。

皆が気持ちよく過ごせる西中、いじめや暴言などなく穏やかな空気の流れる西中、子供たち全員が安心して過ごせる学校の実現をこれからも目指したいと思います。本年もご理解・ご協力の程どうぞ宜しくお願いいたします。

3学期始業式 生徒代表の言葉

みなさん、新年あけましておめでとうございます。

今年度も残りわずかとなり、学校全体が一年のまとめの時期を迎えています。日々の生活の中で、時間の流れの早さを感じている人も多いのではないのでしょうか。

三年生は、これまで三年間通ってきたこの学校を卒業する日が、いよいよ近づいてきました。友達や先生方と過ごした日々、勉強や部活動、行事での思い出を大切にしながら、中学校生活の締めくくりを悔いのないものにしてほしいと思います。

二年生は、これから「三年生ゼロ学期」として、最高学年になるための準備期間に入ります。行事や委員会、部活動などで中心となる場面も増えていくと思いますので、一つ一つの経験を大切に、責任ある行動を心がけていきましょう。

一年生は、これからスキー教室があります。仲間と協力し、ルールやマナーを守りながら、安全で思い出に残る行事にしてください。

今の学年の仲間と一緒に学校生活を送れる時間は、あと少しです。一日一日を大切に、勉強や部活動、委員会活動などにこれまで以上に力を入れて取り組み、全員が気持ちよく来年度を迎えられるようにしましょう。

生徒代表 ○○○○

各学年主任より新年の励ましの言葉

新年あけましておめでとうございます。1年生は4月より、『『自覚』の学年～自分の行動に責任をもとう～』を学年目標に、運動会や合唱コンクール、校外学習など多くの初めての行事に挑戦してきました。行事を通して、仲間と協力しながら成長する姿が見られました。

現在は、1月末のスキー移動教室に向けて準備を進めています。集団生活の中で、自分で考え行動する力をさらに伸ばしてほしいと考えています。

4月からは2年生となり、西中の中核を担う学年となります。これまで以上に自主的に行動できる姿を期待しています。

1 学年 ○○○○

あけましておめでとうございます。新年を迎え、今年の目標は立てましたか？すでにやっていることのレベルアップでも、新しいことを始めるでも構いません。いずれにしても、目標に向かって努力し、年末に自身の成長を実感できると良いですね。

さて2年生にとって、3学期は3年生になるための最後の準備期間です。受験に向けて自身の学習面の成長、最上級生として学校生活の充実、どちらも必要なことです。時間は誰にでも平等に与えられています。1日1日を大切に、有意義なものにしていきましょう！

2 学年 ○○○○

新しい年になり、校内ではそれぞれの学年が次の一步に向けて歩みを進める時期となりました。三年生は進路に向き合い、二年生は学校の中心としての自覚を高め、一年生は中学校生活の基礎を固めきる。学年は違っても、皆がそれぞれの場所で成長の途中にいます。

「雪に耐えて梅花麗し」という言葉があります。梅は厳しい冬の寒さに耐えながら力を蓄え、春には美しい花を咲かせます。学校生活の中でも、思うようにいかないことや努力が報われないと感じる場面があるかもしれません。しかし、その一つ一つの経験こそが、皆さんの根を強くし、これからの成長を支える大切な力になります。

今はまだ成果が見えなくても、日々の授業、行事、仲間との関わりに真剣に向き合うことが、必ず次につながります。学年を越えて互いを認め合い、支え合いながら、青梅市立西中学校の一員として誇りをもって歩いてほしいと思います。

3 学年 ○○○○

部活動等の成果

学校だより第8号でお知らせしました、青梅市小・中学生の主張大会入賞西中生の作品を紹介します。

第21回青梅市小・中学生の主張大会 西中 発表作品

「ふるさと『青梅』」 (青梅市長賞)

青梅市立西中学校三年 ○○○○

私のふるさととは東京都青梅市です。東京と聞くと、ビルが立ち並ぶ都会のイメージをもつ人が多いと思います。でも青梅は、同じ東京なのにとっても自然が多く、緑や川に囲まれていて、少し不思議な感じがする「まち」です。私はこの「都会に近いのに自然がいっぱい」というところが、青梅の一番の魅力だと思っています。

青梅といえばまず多摩川です。小さいころから家族や友達と川遊びをしたり、バーベキューをしたりして、思い出がたくさんあります。夏は川の水が冷たくて気持ちよく、魚や虫を見つけるのも楽しいです。川沿いを歩くと、季節ごとに景色が変わり、春は桜、秋は紅葉がきれいで、私はその風景を見るのが大好きです。川の音を聞いていると、都会のにぎやかさとは違う落ち着いた気持ちになります。

もう一つの青梅の魅力は、山や自然の多さです。青梅駅から少し歩くだけで、緑いっぱいのハイキングコースがあり、学校の行事や家族の散歩でもよく利用します。特に御岳山は有名で、ケーブルカーに乗るだけでもワクワクします。山頂からの景色は本当にきれいで、青梅に住んでいて良かったと感じる瞬間です。東京なのにこんなに自然を身近に感じられる場所は、なかなかないと思います。

それから、青梅は昔からの文化や歴史も大切にしているまちです。青梅駅周辺には、古い映画の看板が至るところに飾ってあり、まるで昭和の時代にタイムスリップしたような気分になります。私は初めてそれを見たとき、「なんでこんなところに映画の看板が？」と不思議に思ったのですが、青梅は「昭和のまち」として知られていて、観光に来る人たちも楽しめる工夫がされていると知りました。そういう昔の雰囲気を残しているのも、青梅ならではの魅力だと思います。また、青梅にはお祭りもたくさんあります。地元神社の夏祭りや、冬のだるま市など、季節ごとに行事があり、地域の人たちが協力して盛り上げています。屋台が並び、太鼓の音が響くと、まち全体がひとつになったように感じます。私は友達と一緒に浴衣を着てお祭りに行くのが毎年楽しみです、青梅に住んでいてよかったと思う瞬間です。

ふるさとというのは、ただ住んでいる場所ではなく、自分の思い出や安心できる気持ちがつまった大切な場所だと私は思います。青梅には自然も歴史も人のあたたかさもあって、どれも私の生活の一部になっています。これから先、もし大人になって青梅を離れることがあっても、川のせせらぎや山の景色、お祭りのにぎやかさを思い出したときに、きっと心が落ち着くと思います。私はこれからも青梅を大切にしたいし、青梅の良さをもっと知りたいです。そして、青梅に住んでいることを誇りに思えるように、地域の行事や自然をこれからも楽しんでいきたいです。わたしたちのふるさと青梅は、私にとってかけがえのない大切な場所です。

「青梅のヤマメを守るために」 (青梅市教育委員会賞)

青梅市立西中学校三年 ○○○○

私が通っていた小学校では毎年「ヤマメの飼育教室」という行事が行われていました。これは漁業組合の方々が運営している行事で、ヤマメの絶滅を救うために始めたそうです。この行事の一連の流れとして、まず二学期の授業中にそれぞれビンを持ち寄り、飼育の仕方を教わったあとに一人三つずつ卵が配られます。その日の内に家へ持ち帰り、ヤマメの入ったビンは冷蔵庫に保管し、ほぼ毎日水を替えながら飼育します。しばらくすると卵は孵化し、栄養の入った袋をお腹に付けた稚魚が姿を現します。稚魚の袋がなくなる頃、育てたヤマメたちを多摩川に放流して私たちの役目は終わりです。私はこの行事から命の重さを学びました。その理由として、育てたヤマメの生存率が想像以上に低かったからです。私は六年間で合計十八個の命を預かりましたが、その内四から五匹ほどしか放流できませんでした。

ヤマメは低い水温と綺麗な水を好む生き物です。そのため、私たちが飼育するときも低い水温と綺麗な水を保つ必要がありました。冷蔵庫でヤマメを保管して毎日水を替えていたのは、ヤマメの好む環境にするためでした。しかし冷たすぎると逆に死んでしまうので、調整が難しかったです。また、水は水道水だとカルキなどが入っているため、川の水か水道水を約一日太陽の光に当てたものを使う必要がありました。水の温度も合わせなくてはならないので、新しい水も冷蔵庫で保管していました。

毎年卵をもらうたび「絶対に放流してやる」と意気込むのですが、預かっている四ヶ月の間にその命たちは想像するよりも早く消えていきました。孵化したばかりの稚魚たちはまだ泳ぐのに慣れておらず、冷蔵庫を開けてビンを見るたび、一生懸命泳いでいる姿がとても可愛くて愛おしかったです。しかしある日ビンを覗いたとき、白くなって固まった稚魚がいるのです。元気に泳いでいた姿が嘘のように全く生氣を感じず、本当にショックでした。その中で生き残ったヤマメたちを放流できても、自然界の厳しい環境で生き残れるのはどれくらいでしょうか。

私たちがヤマメを飼育し、放流していたとはいえ、ヤマメの数が減っていたのは確かです。中学生になった私は、もうヤマメの卵を預かっていません。ですがヤマメは生態系が崩れ始めれば最初の方に消えていくと考えているので、私は生態系を守る取り組みを調べました。例えば川を汚さないためにゴミを持ち帰ったり、川に油を流さないために油を固めて捨てたりという様々な取り組みがありました。ヤマメを守るために調べたことは、いつか地球を守ることに繋がっていて「私の行動一つ一つは生態系に影響している」と誇らしくも緊張感のあることと考えて取り組む必要があると感じています。

「青梅の人口減少や少子高齢化について」 （審査員特別賞）

青梅市立西中学校三年 ○○○○

私は青梅の人口減少と少子高齢化についてより一層の対策を取ることが必要だと思います。

青梅市は自然が豊かで、御岳山などの観光スポットもあり、とてもすてきな街だと感じています。しかし、2005年をピークに人口は減少傾向にあり、2005年には約14万人いた人口が2023年には13万人を割り込むに至りました。また、2025年には12万人、2050年には10万人にまで減少すると予測されています。高齢化も同時に進んでいて、青梅市の高齢化率は2020年時点で32.0%に達しており、全国平均の28.7%を上回っています。さらには、子どもの人口も2013年から2023年の10年間で約26%と大きく減少し、多摩地区の中でも特に著しい減少率になっています。少子高齢化や人口減少は労働力の減少、インフラ維持の困難化、市の税収の減少など地域経済や生活にも影響を及ぼすため、重要な課題です。

青梅市はこうした課題に複数の対策を講じています。まず、移住・定住プランの推進により若い世代や子育て世代の呼び込みを強化しています。また、離れた職場へ通勤する人への応援金や住宅購入支援金、移住希望者向けの脱穀体験ツアーなども実施しています。さらに、空き家の活用や中心市街地の活性化にも力を入れ、街の魅力や若者の定住につなげようとしています。

しかし、私は調べるまでこうした取り組みを知りませんでした。また、同じように青梅市が行っている取り組みを知らない若者も多いのではないかと思います。

そこで、私は SNS を活用した呼びかけにより力をいれるべきだと考えました。青梅市にも公式インスタグラムがあり、青梅の魅力をたくさん発信していてとてもいい取り組みだと思います。しかし、移住に関する投稿や空き家の活用に力を入れていることをアピールする投稿が少ないと感じました。そのため、移住者に向けた制度を紹介するなどして、積極的に受け入れている姿勢を示してもいいのではないかと思います。また、観光地以外にも街の雰囲気分かる投稿や実際に住んでいる人に聞いた青梅市の魅力などを発信して、青梅に対するイメージがわきやすくなることも大事だと思います。

さらには、青梅に住んでいる人にも青梅のことをもっと知ってもらい、青梅のことを好きになってもらうことも大切だと思います。そのために、地元の人が楽しみながら青梅について知れるイベントがもっと増えてもいいと思いました。

青梅には魅力がたくさんあるので、多くの人に知ってもらえば、住みたいと思う人も増え、街の活性化にもなると思いました。

「地域の防災について」 （審査員特別賞）

青梅市立西中学校一年 ○○○○

2025年7月5日に大災害が起こるという予言がされていました。その日を過ぎて今思うと大きな災害はなく、ほっとしています。ただこの予言が私達に防災意識を、高めてくれたことは間違いありません。

7月5日が近づくに連れ「どうしよう」「だいじょうぶかなあ」「何が起こるんだろう」と不安になりました。母はペットボトルの水などを用意して災害に備えていました。また家族とは災害が起きたときの待ち合わせ場所を確認しました。結局災害は起きませんでした。いつ来るかは分かりません。いつ来るか分からないからこそ備えていることが大切です。家で備えるのはもちろん、地域ではどんなことをして備えているのか考えて見ました。

私は小さいときから自治会の運動会や防災訓練に参加してきました。大人達が全力で競い合っていた光景はとてもカッコいいと感じていました。防災訓練ではヘルメットを被って町中を歩き、学校に集まって消火訓練や AED などの救命訓練をしました。今思えば大人たちは真面目な顔をして町を守ろうとしていたのだとわかりました。災害が来て何より頼りになるのが人とのつながりだと思います。特に私達が住む地域は山と川に挟まれ、頼れる幹線道路は一本しかありません。その幹線道路が通れなくなったら食料などの物資が届かなくなるだけでなく、救急車などの緊急車両も来れなくなると思います。そうすると私達は助け合わなければなりません。自治会の取り組みはそのための活動だったのだと気づきました。

しかし、今は活気のあった自治会の運動会もなくなりました。自治会に参加していた人たちの高齢化や人数が減ってしまったことが原因と言われています。このままでは自治会がなくなってしまいます。自治会はなくなっても良いのでしょうか。もしなくなったら親睦を深める機会がなくなってしまいます。災害時に、地域での助け合いが多くの命を救ったという話を聞くことがあります。普段関わりがないと災害時の助け合いはやりにくくなってしまうと思います。そうすると助けられる命も助からないかもしれません。だからこそ自治会は大切なのです。人と人との親睦を深め、信頼できる人が町内にいるだけでとても安心なのです。私は同世代の中学生が自治会の役員を務めるというニュースを見ました。人手不足と高齢化に悩む自治会が多い中この自治会では中高生らが次々に役員になっているそうです。自治会に入るには年齢制限はありません。

私は、災害が起きたとき、地域での助け合いが多くの命を助けると考えています。青梅市でも自治会が盛り上がるとより安全な町になると思います。

1 月 の 目 標

感染症予防につとめよう

青梅市立西中学校

〒198-0063 青梅市梅郷 6-1460-1

【TEL】 0428-76-0114 【FAX】 0428-76-2394

平日 7 : 45 ~ 16 : 45 まで

※上記以外留守番電話対応

【HP】 <https://www.city.ome.tokyo.jp/school/nishi-j/>